

静岡英和学院大学 英和ユニバース (学報)

EIWA UNIVERSE

英検スカラシップと特待生入学試験の導入について



静岡英和学院大学人間社会学部では、2014年度入試より「英検スカラシップ」を、2015年度入試より「特待生入学試験」を導入しました☆

○英検スカラシップとは

—英検スカラシップは、入学時までには実用英語技能検定2級以上を取得した入学生に対して、入学後のさらなるレベルアップを支援する目的で、入学金及び授業料の2年間分を減免する奨学制度です。対象は、人間社会学科及びコミュニケーション福祉学科のすべての選抜試験の合格者です。(ただし、「私費外国人留学生」は対象となりません。)各入試の合格時に英検2級以上を取得していなくても、その後取得して、入学式以前の定められた期日までに取得したことを証明する必要書類を提出すれば、減免を受けることができます。グローバルな現代社会で求められるコミュニケーション力を身に付けるためには、日本語能力だけでなく、広く世界へ発信するための外国語、とりわけ国際共通語ともいべき英語の運用能力をレベルアップすることが必要です。英検スカラシップは、グローバル化した現代社会をたくましく生き抜くために、という目標を以て開学し12年を経過した人間社会学部が、さらにバージョンアップを図る取り組みの一環です。

○特待生入学試験とは

—特待生入学試験は、「高等学校で学習する基本的な学力において非常に優れた評価が認められる者」を選抜する入試制度です。本入試は11月下旬に試験を実施するもので(今年度は11月29日に実施)、試験科目は国語及び英語の2科目でマークシート方式です。特待生合格者は、入学金及び授業料の2年間分が減免されます。また、特待生として合格しなかった場合も、成績が良好な者は一般入学試験に合格したものとみなします。本入試の大きな特色は、①大学入試センター試験に準拠した試験問題の出題、②特待生合格基準(2科目合計の得点率が80%以上)の明示、③試験成績の開示、以上3点が挙げられます。これらの特色によって、本入試は「大学入試センター試験のプレテスト」として受験生に利用できるように工夫されております。



英和の入試 まるわかり BOOK

Check!

2015年度入試より
**特待生入試が
はじまります。**



静岡英和学院大学
SHIZUOKA EIWA GAKUIN UNIVERSITY

特待生リーフレット

—英検スカラシップ

と特待生入学試験の導入により、勉強意欲旺盛な受験生をさらに多く募ることで、本学のさらなる発展を期待しています。

(入試・広報課 小林)

目次

2. 学長あいさつ
3. 宗教委員会より
3. ボランティアセンターより
4. 学科NEWS(大学)
5. 学科NEWS(短大)
6. キャリア支援課より
7. 学務課&総務課より
8. 後援会だより
8. 留学生センターより



地域を見つめつつ 大きな夢を

学長 武藤 元昭

昨年この欄の見出しに「明るく活気ある大学に」と書きましたが、1年経てみて、その思いはそう外れていなかった気がしています。

地方の大学、特に私立大学はほぼ例外なく入学者難に苦しめられています。本学も例外ではありません。確かに高校生の数は曾てと比べれば減っています。しかし、大学進学率は上がっていますから、それほど入学者難に悩まされなくてよい筈なのです。それが現状のようになってしまう大きな原因は、首都圏への一極集中です。東京都内の主要私大では、定員割れなどの心配はありません。それどころか、更に多くの学生を吸収するような策を講じています。流石に文科省もその点を憂慮して定員以上の入学者を入れないよう強く要望するということですが、その程度のことで今の流れは変わらないと思います。

そこで、典型的な地方大学である本学は、その地理的特性を生かした大学として活動して行く必要があります。すなわち地域密着型の大学です。学生諸君が目指す就職先もほとんど県内の企業ですから、その意味も含めて地域との関係を深めて行きたいと思っています。勿論、短大は地元の信用金庫との提携を初め色々な地域との連携を既に築いておりますし、大学も公開講座や「あちよぼ」「ハピネスEIWA」など地域の皆様に親しまれる企画を展開しております。その上で更に学生諸君と地域とが結びつき、地元で愛される大学となれば、それが本学の特徴として印象付けられるのではないかと思います。

とは言え、例えば就職に関しては、学生諸君にはもっと外に目を向けてもらいたいという思いはあります。県内にも優良企業は多くありますが、自分自身の思いを突きつめて行けば、目が外に向けられると思います。目標が定まれば、勉強にも欲が出てくるのではないかと思います。

また、もっと勉強がしたいとなれば大学院への進学という道もあります。残念ながら、本学には大学院はありませんが、外の大学院への進学の道はいくらでも開かれています。ゼミ担当の教員に相談すれば、親身に指導してくれると思います。

とにかく、望みはなるべく大きく持ってもらいたいと思います。小さな枠の中に自分から閉じ籠ってしまわないで、大きな夢を持って、その夢の実現に全力を挙げてもらいたいものです。大学はその為の支援は可能な限りする用意があります。

そうした思いの中で地域貢献を目指していけば、その動きは決して内向的にならないと思います。

冒頭に「明るく活気ある大学」と記しましたが、そうした大学の在り方こそ地域の信用を得られるものであり、また大学の特徴として評価されるものでもあると思います。幸い本学に対して私はそういう印象を強く持っています。今後ともその面を大いにアピールして行きたいものです。



2014年度静岡英和学院大学のクリスマス



今年度の英和大学の宗教テーマは「出会い！」ですが、一年生達はリトリートから始まって毎週の礼拝や、キリスト教の授業を通して、キリスト教の精神と「出会った」ことと思います。そして、最大のキリスト教との「出会い」はクリスマスの行事だったのではないのでしょうか。

―第六回目となるクリスマスカードコンテストは応募件数116件で、最優秀賞は二年続けて人間社会学科の徳田美保さんでした(このカードは英和大学のオリジナルカードとして印刷しました。)。11月30日のアドベント(待降節)前後に学生



たちによってイルミネーションの点灯の準備やクリスマスツリーや校内のクリスマスのデコレートなどがなされていきながら、他方、第八回ワンコイン・クリ

スマス・コンサートが新館一階にて行われました。12月4日、吹奏楽団の演奏、8日、コミュニティ福祉学科一年の鈴木岳大さんと横山将之さんによるバンド演奏、9日はベル部とコミュニティ福祉学科四年佐藤良子さんによるピアノ演奏は、聞きに来てくれた学生・職員たちの心をしばしの間、和ませてくれました。

―12月17日(水)にはクリスマス礼拝が行われました。照明をおとした新館5階講堂内において聖歌隊の賛美の音が響き、いつもの礼拝とは違う雰囲気学生たちも驚いているようでした。4名の点火係の学生によりキャンドルに火が点され、留学生3名による聖書朗読の後、伊勢田奈緒牧師による「イエスと共にきのうも今日もいつまでも」と題する「イエスは・・・二千年の昔、ユ

ダヤのベツレヘムでお生まれになりました。しかし、それは過去の出来事ではなく、この地で私たちの中に生きられた主は、今もわたしたちと共に生きて導いてくださるのです。イエス・キリストは、昨日も今日も、いつまでも、同じです。イエスへの旅によって、私たちはこのイエスと出会い、その出会いを心の底から喜び、祝いたいものです。」というメッセージがありました。

―礼拝後、第三代目ISEDA劇団(人間社会学科4年ケイ・トウエン・サン・ナウおさん他6名)による「賢者の贈りもの-ISEDA劇団版」(伊勢田奈緒脚本)が上演されました。劇終了後、クリスマス献金が献げられ出席者全員で讃美歌「ひいらぎ飾ろう」を歌い、祝祷がありました。午後6時からキャンドルサービスとクリスマス会が行われました。キャンドルの灯りの下、一年を振り返りつつ、神聖な雰囲気の中、礼拝が行われた後、結成したばかりのエンターテイメントサークルの司会の下、クリスマス会が始まりました。菊池みち子先生のチェンバロと谷口ジョイ先生のご長男のバイオリンの演奏に皆、うっとりした後、周りの人たちと楽しく歓談したり、クリスマスの盛りだくさんのごちそうを食べたり、本当に和やかで幸せなときを学生、教職員と共に過ごすことができました。今年も多くの学生の協力により、手作りで温かで愛にあふれた静岡英和学院大学ならではのクリスマス行事を行うことができました。感謝。(宗教部 伊勢田奈緒)



第49回楓祭にて「生命のメッセージ展」を開催しました!

静岡英和学院大学ボランティアセンターでは、啓発活動の一環の初の試みとして、ボランティア委員が中心となり、学生自身が人の生命や人と人との繋がりについて考え、関心を持てるような機会として、学園祭にて「生命(いのち)のメッセージ展」を行いました。

―「生命のメッセージ展」とは、犯罪・事故・いじめ・医療過誤・一気飲ませなどによって、理不尽に生命(いのち)を奪われた犠牲者が主役のアート展です。犠牲者ひとりひとりの等身大の人型パネルはメッセージャーと呼ばれ、その胸元には本人の写真や家族の言葉を貼り、足元には「生きた証」である靴を置いて、命の大切



さを訴えます。無念にも亡くなり、生きたくても生きられなかったメッセージャーたちの想いを伝え、「加害者も被害者も生い、いのちが守られる社会」の実現を夢見ています。

―今回は、本当に多くの方々、人の生命や、人と人との繋がりについて考える機会となる啓発活動となる事が出来て良かったと思います。来場者の中には「感動しました」や「考えさせられました」と言って下さる方がいらっしやり嬉しい限りでした。

―少しでも、被害に遭われた方やそのご遺族に対して『生命のメッセージ展』にて支援活動を知って頂き、協力が出来たのではないかと思います。(ボランティアセンター 橋本)



*「英和ブログ」が誕生しました！

静岡英和学院大学のウェブサイト「英和ブログ 教員のつぶやき」が昨年末に加えられ、まずは人間社会学科の教員たちが執筆を担当することになりました。

—第一回目は学科長による「ごあいさつ」、その後近代文学が専門の古郡教授の「注釈について」、「映像文化論」を担当しているぼくが書かせてもらった「高倉健、菅

原文太—そしてアメリカ」、本学チャプレンの伊勢田教授による「英和大学とクリスマスと伊勢田劇団」、観光まちづくりが専門の崔講師執筆の「英和の学生が発信する川根本町の魅力」など、続々と更新されています。

—多民族国家であるアメリカの一つの理想像として「サラダ・ボウル」という言葉がしばしば使われます。煮物鍋物のように食材を、すべて一緒にして煮込み、同じ味にしてしまうのではなく、それぞれの野菜をそのまま、個性と味わいを活かしながら調和させ、サラダという一つの料理にする。同じようにそれぞれの民族の特徴を尊重しながら、そのことを強みとして素晴らしい国家を作ろう、ということです。



—ぼくは人間社会学科もサラダボウルだと思っています。専門知識をしっかりと教えるのはもちろん、多様性から生まれる学びの力も学科の特質なのです。

—「サラダ・ボウル」である人間社会学科の学びや学生たちの活動は多岐にわたります。「英和ブログ」が、学科の魅力と、学ぶことそのものの愉しさを伝えるものに、おいしい“サラダ”になるように、今後もがんばって更新を続けていくつもりです。「静岡英和学院大学」のサイトから、「英和ブログ」を一度(と言わずも、何度も)覗いてみてください。(人間社会 鬼)

ココ
→



* 社会福祉士国家試験対策

—まもなく、社会福祉士国家試験の試験日となります(本稿執筆日、2014年12月)。第27回試験は、2015年1月25日(日)に、東京会場はビッグサイト、名古屋会場は吹上ホールなど、全国の24の試験地で行われます。全国合格率が3割を下回る難関の国家試験ですが、今年も本学の学生は合格を目指して、4月から受験対策を進めてきました。

—前期、後期と対策講座や模擬試験を進めてきましたが、12月には直前対策講座として3日間連続の国家試験直前対策講座を開講しました。受講生にとっては、毎日朝9時から夕方17時まで、休憩時間以外は国家試験対策漬けの毎日となりました。

た。講師には、昨年のご協力いただいた外部講師にお越しいただき、19科目のポイントの講義はもちろん、「解法のテクニック(出題者視点の読解法や事例問題の攻略法)」や「これから47日間の準備と当日の極意」などをお話いただきました。

—参加する受講生からは、講師の話を一言も聞き洩らさないといった真剣な様子が伝わってきました。今回は、2014年夏に卒業生向けのアンケートを行ったこともあり、関心を持った4名の卒業生が仕事の合間を縫ってこの講座を受講しました。高齢、障害、児童、低所得、医療などさまざまな分野で行われる相談援助業務には、資格がなくても就くことができます。しかし、社会福祉士とし

て仕事をするのか、そうでないかには大きな違いがあります。社会福祉士には、常に専門性を向上することが求められますし、また周囲からは相談援助の専門職としての期待が寄せられます。資格を取ることはゴールではなく、相談援助の専門職としてのスタートといえます。合格発表は卒業式と同日の3月13日(金)です。受験生が笑顔でこの日を過ごせることを期待しています。

(コ福学科 岡部)



* 子育て親子広場「あちよぼ」

—2011年6月より学生による子育て親子ひろば「あちよぼ」が始まり4年目になりました。毎回大盛況でイクメンパパの参加も多くなりました。



「あちよぼ」全出席という親子がいっぱいだったので、「あちよぼ」の参加理

由をお聞きすると、お子さんには大好きなお姉さん学生がいるそうで、お子さんはその学生がどこの担当場所にいってもすぐにみつけてしまうのだそうです。やさしい笑顔の学生に親子で癒されにきているのです。「あちよぼ」の地域貢献は、日々の学生の笑顔やしぐさ、ことばなど何気ないところからでているのだと、知らされてうれしくなりました。

—「あちよぼ」は、乳幼児対象にしたあそびを学生たちが企画しています。催しもの実践だけでなく、その準備や運営、片づけなど、様々な保育に必要な知識を体で覚えていきます。この学生たちの保育実践が保育実習や保育現場で活かされることをめざしています。

(コ福学科 永田)

*I love しずおか♡

「I Love しずおか協議会が主催するインターンシップに、現代コミュニケーション学科の2年生3名の学生が採用され、県内他大学・短大の29名の中の一員として活躍しました。

この企画は、冬に実施される2つの「おまちイベント」の企画を若者から提案してもらうというもので、「(青葉イベント広場の)スケートリンクに若者を呼ぶにはどうしたらいいか」「サンタパレード目指せ1000人」の2つのイベントに取り組んだとのことでした。

ただ単に学生同士の討議だけではなく、静岡鉄道、伊勢丹、セノバ、109の各企業の方々の講義があり、企業の仕組みや課題、さらに人生論なども聴くことができ、有意義な内容であったとの報告を受けました。



櫻井佳菜さんが参加したグループでは、「冬のおまちを食べてくせ」という題で、イベントに「おでん」を取り入れたらどうかという提案をしました。そして「みんなで新しい企画を提案していく楽しさ、みんなで話し合い、いろいろ意見を言ったり聞いたりするおもしろさを感じ、協力し合うことやコミュニケーションの大切さや、お互いを補い合う気持ちを持つことの必要性を学びました」と語りました。

吉田智花さんは、前年のSBSインターンシップに参加した経験を活かし、SBSのお祭りで、アンケートをとったり、プレゼントを渡す係を買って出て、「おまち活性化」の実践を体験しました。そして、「これまではおまちを全然知らなかったが、自分でもおまちにもっと行きたいし、周りのみんなにも、おまちのいいところを広めて、静岡を盛り上げていきたい」と話してくれました。

片平圭さんは、「他の大学の人たちと仲良くなったし、討論の面では、個々の様々な意見が出てくることにより、これまでとは違う視点から物事を考えられるようになった」と参加の意義を述べていました。
(現コミ学科 高橋)

*和食給食コンテスト入賞

「和食」のユネスコ無形文化遺産登録一周年記念として、「ふじのくに和の食文化の祭典」が静岡県沼津市プラザベルデで12月6と7日で開催されました。本祭典に先立ち行われた和食給食コンテストに、食物学科の学生27名が創作レシピと写真で応募しました。その結果、最優



秀賞にチームTM-SKY (手塚優希、山本望、増保郁美、鈴木菜摘、京谷真利)、優秀賞に山崎小百合並びにアイデア賞に石井単光、池上紗都子、渡邊紗代、新村美菜がそれぞれ選ばれました。最優秀賞と優勝賞の6名については、同祭典の会場で表彰されました。



*青少年のための科学の祭典

私達は、静岡科学館主催のサイエンスフェスティバル in る・く・る 2014「青少年のための科学の祭典」第18回静岡大会(8月16日)に初めて参加しました。教員3名と2年生2名(相澤麻衣さんと木村友紀さん)の総勢5名のスタッフで、「果物(バナナ)からDNAを取ってみよう」というタイトルで出展しました。フェスティバルは4日間開催され総体験者数は15,363名であったそうです。私達のブースには160名の子供がDNA取りに挑戦して、

バナナをすりつぶしてシャンプーを加えてかき混ぜて、最後に白いDNAの紐状の塊が目で見えた時には、上手くいったことに笑みが見られました。当初予定した100名程度の参加者と考えていた私達も、実験を希望する子供の数に驚き、実験材料であるコーヒーフィルターが足りなくなる事態になり急遽購入することになったりと、慌ただしい企画ではありましたが、子供との科学実験という良い体験を経験することができました。
(食物学科 佐々)

～内定者の声～

是非、参考にしてこれからの
就職活動に活かしてください！！



【人間社会学科】 K HTOI SAN NAWさん(留学生)

内定先: 日本駐車場開発株式会社(営業職)

__就職活動開始時、合同企業説明会で、人の多さに不安を感じました。就職サイトにエントリーしても、思うような結果が出せずにつらかったことが多かったです。しかし、会社説明会に参加することは大切です。その人の将来性を見られるからです。

__志望動機等をしっかり考え、就職試験に臨んでください。最初からこだわりすぎないで、早めに始めれば、きっと自分の好きな企業に出会えます。



【人間社会学科】 酒井 麻佑さん

内定先: ジェイアール東海静岡開発株式会社(事務職)

__私が就職活動をするうえで大切にしてきたことは、「自ら動く」ということです。自分自身の将来の明確なビジョンがないからこそ、多くの企業や人と触れ合うことで、自分がどんな場所で何をしたいのかが見えてくることとなります。

__「失敗したら…」、「うまく伝えよう」なんて考えずに、まずは今の自分の力で動いてみるということが大切だと思います。



【コミュニティ福祉学科】 澤柳 美早都さん

内定先: 静岡市(保育教諭)

__就職活動では、大学生活をいかに有意義に全力で過ごせたか、が大事になってきます。何を学び、どんな人間になったのか、それを自分自身で再確認しているような感覚でした。つまり、試験は、人間性を見られる試験内容だったように思います。

__模擬試験では、思うような結果が出なくても、大丈夫です。諦めずに最後まで頑張ってください。



【現代コミュニケーション学科】 古橋 南奈さん

内定先: 静岡県国民健康保険団体連合会(事務職)

__就職活動は、自分で考えて行動しなければ、何も前へ進めません。私は、経験したことのない大変さや辛さも感じました。しかし、周りの人たちに支えられ、内定を取ることができたと思います。もちろん、筆記試験対策は必要ですが、企業見学・お礼状の作成など積極的に取り組み、意欲やマナーを示すことが大切です。

__諦めず自分のペースで頑張ってください！



【食物学科】 増保 郁美さん

内定先: シダックス株式会社(栄養士)

__就職活動を行うにあたって、一番苦戦したことは、履歴書やエントリーシートの書き方でした。文章を書くのが苦手だったため、キャリア支援課の講座に参加してアドバイスを頂きました。志望動機を明確にすることが自信に繋がり、面接でも堂々と振る舞うことが出来ました。

__授業と就職活動を両立させるのは大変ですが、前期までに内定をもらうのがよいと思います。

公開講座を行いました！

本学では毎年、地域の生涯学習の一助として公開講座を行っています。今年度の公開講座は、昨年富士山が世界遺産になったことを受け、「英和からみた富士山」を共通テーマ開催しました。全6回、のべ約100名の方にご参加いただきました。



__富士山の世界遺産登録後の観光における課題についての講座や、富士山の湧水が育む食材についての講座、富士山の魅力を英語で語る講座など、本学ならではの多彩な分野で開催しました。地元である富士山の魅力を再発見していただけるような講座になりました。

__また、今年度は数年ぶりに野外での講座(バスツアー)も実施しました。白糸の滝や富士山本宮浅間大社、三保の松原などを巡り、日本古代文学に登場する富士山について講義をしました。参加いただいた方々からは好評をいただき、有意義な時間を過ごしていただけたと思います。



写真は富士山本宮浅間大社の湧玉池での講座風景と田子の浦漁港内での昼食風景です。

今後も工夫を重ねて、楽しく学び、教養を深めていくことができる講座を開催して参ります。

(学務課 小田)



「課外活動報告」〈活動記事〉

英和学院大学には体育系・文化系サークル合わせて35団体の課外活動団体があります。その中でも体育系サークルは積極的に対外試合などに臨み、活躍の場を広げている団体もあります。

__文化系サークルについては、活動を披露する機会というのは多くありません。そんな中でも精力的に活動機会を広げている団体もあります。

__英和学院大学に隣接する日本平動物園では、例年、夜の動物園という夏のイベントを行っており、本学からも複数の団体(吹奏楽団・ハンドベル部・カラフルパンチ・軽音楽部)がイベント参加しました。イベント出演したハンドベル部は、演奏終了後に青葉シンボルロードで開催されるクリスマスイベントでも演奏して欲しいとい

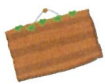


う依頼を受けたそうです。勿論、依頼に快諾しクリスマスイベントへも参加してきました。

__この他にも、福祉施設や各種イベントへ出向き公演を行うサークルも複数団体あります。

__本学の活動団体に興味を持ち、公演依頼をしてくれる施設に感謝しつつ、自らの力で活動の機会を広げようとする団体には、今後も頑張ってもらいたいと願っています。文化系サークルには、公演活動を行う団体以外にも学内での活動に拠点を持つサークルも複数あります。

__英和学院大学の課外活動がどんなものなのか興味を持った方は右記QRコードからチラッと覗いてみてください。この活動報告はほんの一部に過ぎません。(学務課 森)

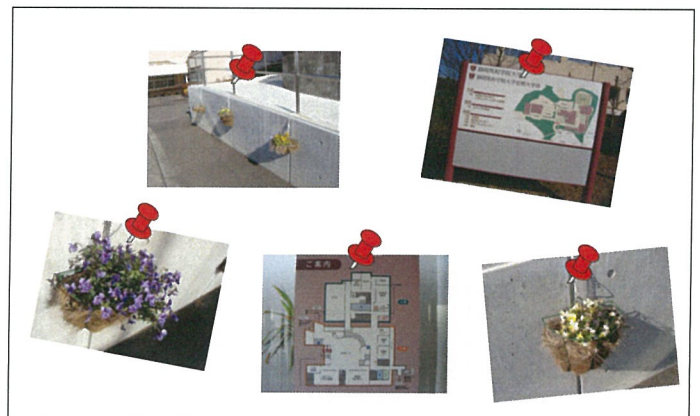


案内板&花



今年度は構内の案内板を整備するとともに、本館玄関前には季節ごとの花を飾ることにしました。これまで殺風景だった玄関前も、花を植えたことで見違えるほど明るくなり、本館を訪れる人たちの心を和ませています。「ここを通る人が1人でも笑顔になってくれれば良いな」と思いつつ、花に水をあげる毎日です。

(総務課 安達)





「音楽のおくりもの」コンサート

後援会
だより

2月8日(日)、新館5F講堂において、大学後援会主催によるコンサートが開催されました。

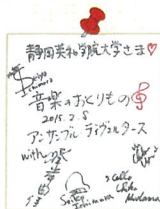
__例年行われているコンサートではありますが、今年は「0歳から」と謳っていることもあって、いつもとは違った層のお客様も数多く来られました。

__楽曲も小さなお子様を中心に考えられており、誰でも知っているクラシックの名曲から、学校の運動会でよく聞かれる曲まで、子供にとっては身近で、大人にとってはどこか懐かしい選曲の数々でした。「幸せなら手をたたこう」では、子供から大人まで、会場が一体と

なって手や頭を叩き、「イントロクイズ大会」では、イントロを頼りに子供たちが元気に歌声を響かせていました。

__そして、おそらく多くの方が楽しみにしていたであろう「アナと雪の女王」では、峰岸由佳さんの美しい歌声に会場は酔いしれ、皆の期待を一身に背負いながらも最後まで見事に歌い切った“エルサ”の安堵した表情は特に印象的でした。

__当日ご協力いただいた後援会役員の皆様には心から感謝申し上げます。(後援会 安達)



留学生センターWebサイト公開!!



留学生センターのWebサイトを公開しました。今後も留学生支援の窓口として役割を果たしながら、積極的に情報を発信し、地域・国際交流の推進に貢献して参ります。

* 留学生との交流(ホームステイ)に参加しました。

8月2日(土)~4日(月)、本学の留学生12名が、御前崎市で開催されたイベントに参加し、ホームステイを体験しました。夏祭りで花火や竜陣太鼓を鑑賞し、ホストファミリーや市民との楽しい交流が貴重な思い出になりました。



* 「留学生との交流会」を開催しました。

1月13日(火)、学生同士及び地域の方々との交流を図ることを目的として、新館1階のラウンジで「留学生との交流会」を開催しました。留学生より母国文化の紹介や日本伝統芸能の演出などで異文化の理解を深めました。今年も地域のかたがたに大勢参加していただき、留学生たちと楽しい時間を過ごされました。



* 大谷崩れ記念植樹活動に参加しました。

10月26日(日)、静岡西ロータリークラブが主催した大谷崩れでの記念植樹活動に、本学から中国、ベトナムの留学生が参加しました。植樹を通して留学生たちは環境保護意識を高めることができました。植樹の後、餅つきを体験し、親睦の輪を広げ、参加者と地元の方々との絆を深めました。



* 静岡県・浙江省短期留学報告発表を行いました。

12月10日(水)チャペル終了後、静岡英和学院大学5階講堂で、静岡県・浙江省短期留学報告発表を行いました。2014年9月に2週間に渡って中国浙江省の大学に短期留学した山下さんと、2014年10月から12月まで本学に短期留学された浙江省の大学生嚴姚姚さんに短期留学の様子や感想を語っていただきました。二人の前向きな姿は学生たちに良い刺激になったと思います。来年度の短期留学は是非多くの学生に体験してほしいです。(留セン 鈴木)



静岡英和学院大学
SHIZUOKA EIWA GAKUIN UNIVERSITY



静岡英和学院大学短期大学部
SHIZUOKA EIWA GAKUIN UNIVERSITY JUNIOR COLLEGE

〒422-8545

静岡市駿河区池田1769

TEL 054-261-9201

FAX 054-263-4763

<http://www.shizuoka-eiwa.ac.jp>

info@shizuoka-eiwa.ac.jp

企画・編集 学報委員会